

3.平成7年度に注意を要する病害虫

北海道病害虫防除所

1.はじめに

北海道病害虫防除所、各道立農試および道機業改良課等で実施した発生予察事業並びに試験研究の結果から平成7年度に特に注意すべき病害虫について報告する。

2.新たに発生または命名された病害虫

平成6年度に新たに発生または命名された病害虫は15、新レーズ1であるが、その概要を表1に示す。

3.平成6年度に多発した病害虫

平成6年度の病害虫の発生状況の中からやや多〜多発した病害虫を表2にまとめた。高温・乾燥経過により、害虫の発生が目立ち、病害は少なかった。

4.平成7年度に特に注意を要する病害虫

1)馬鈴しょの半身萎ちよう病

近年、馬鈴しょの黄変期が早まる現象が道内各地で認められる。これらは維管束部が褐変しており、平成6年の実態調査により、この原因がパーティシリウム病(*Verticillium dahliae*)であり、道内広範囲に発生していることが判明した。馬鈴しょ栽培跡地のメロンの半身萎ちよう病やダイコンのパーティシリウム黒点病の激発した事例も知られている。

本菌は寄主範囲が広い馬鈴しょのみならず、跡地に栽培される他作物にも被害を及ぼすため跡地に栽培する作物の選定には注意を要する。また、本病は土壌伝染が主体であるので、トラクタ等による汚染土壌の移動、拡散防止に注意する。

2)水稻のアカヒゲホソミドリメクラガメ及び斑点米

近年の発生は数年続きの夏期の低温、不順天候により少発に推移したが、平成6年は6月から8月前半まで高温・乾燥傾向が持続し、特に第2世代の発生は平年を大中に上回った。また、水稻の出穂が早まったため、水田への成虫侵入も早まり、以降8月後半までやや多発傾向に推移した。このため、斑点米も広範囲に発生した。

斑点米の多生の一因として、水田における本種の発生が遅くまで見られたのに対し、薬剤防除の切り上げが早まった傾向及び散布回数の不足などが考えられる。

従って、本種の生息場所となる小麦畑、牧草地および畦畔などイネ科雑草地での発生動向を把握するとともに、水稻の生育状況と本種の発生実態に応じた適正防除に努めること肝要である。

3)小麦及びイネ科牧草の麦角病

平成6年に立毛中の小麦および周辺イネ科雑草を対象に本病の発生実態調査を行ったところ、空知、釧路および十勝管内のイネ科雑草に発生が確認された。なお近年、収穫調整中の小麦への麦角粒の混入、さらには、小麦にも本病を認めた事例もある。

本年のイネ科雑草にける広範囲な発生及び近年の小麦における発生状況から、本病の発生拡大が懸念される。従って、防除対策として麦角粒の混入していない健全種子の使用、発生地では深耕により麦角粒を土中深く埋没させて発芽阻止すること、ほ場周辺のイネ科雑草の出穂前の刈取り及びほ場内の除草の徹底などの対策が必要である。

4)てん菜・豆類など各種作物のハダニ類

平成6年は各種作物で近年にない異常多発となり、豆類では早期落葉、てん菜では葉の脱色、部分的な枯死が見られた。この原因は6月以降8月前半までの長期にわたる高温・多照・少雨による干ばつ傾向がハダニ類の急激な密度増大をもたらしたためと考えられる。ナミハダニが主体であったが、一部にはカンザワハダニの混在も見られた。

従って、多発したほ場周辺の雑草地では越冬成虫の密度が高いと予想されるので、発生動向に注意し早期発見に努めるとともに、防除に当たっては、葉に被害が現れるほどの高密度に達してからでは防除効率が低いので、夏期に高温・乾燥が予測される場合には予防的に残効性の長い薬剤を作物の周辺部に散布することが望ましい。

5)タマネギのネギアザミウマ

近年、各地で多発傾向となり、被害も目立っている。平成6年は6月以降の高温・小照・少雨による干ばつ傾向が長期にわたり持続したため、本種の増殖に好適となり、道内のタマネギ栽培地帯のほぼ全域で多発した。タマネギ畑への成虫移動は6月上旬頃と早く、密度は急速に増加した。被害は例年になく早期から現れ、激しいところでは7月上旬には被害程度指数が100に達した圃場もみられ、枯上がりも急速に進み大きな被害をもたらした。

本種は高温・乾燥条件が持続する場合が多い。本年の多発から、タマネギ畑周辺の雑草地では越冬成虫密度が高いと推測されるので、発生期の気象推移に注意し、防除時期を失しないよう早期発見に努めるなど適性防除を心掛けることが肝要である。

表1 新たに発生または命名された病害虫

作物	病害虫名	病原菌・害虫の学名	病徴・加害
トウモロコシ	倒伏細菌病	<i>Pseudomonas marginalis</i> pv. <i>marginalis</i>	葉鞘の水浸状～赤褐色斑紋
ニンジン	ストレプトミセスそうか病	<i>Streptomyces</i> sp.	根部の隆起または陥没したあばた状病斑
メロン	つる割病(新レース)	<i>Fusarium oxysporum</i> .f.sp. <i>melonis</i> (レース1,2)	葉の黄化症状(レース1,2)
アルストロメリア、 デルフィニウム、 ニゲラ、アスター、 バラ、 ポインセチア	灰色かび病	<i>Botrytis cinerea</i>	花、花茎、花弁などの淡褐色～褐色病斑
グラジオラス	ボトリチス病	<i>Botrytis gladiolorum</i>	葉身の赤褐色病斑
麦・イネ科牧草	キタムギハモグリバエ	<i>Chromatomyia fuscua</i>	葉の線状潜葉痕
ホウレンソウ	ヒラズハナアザミウマ	<i>Frankliniella intosa</i>	葉のわい化、奇形葉、生育停滞
ピーマン	シャノホコリダニ	<i>Polyphagotarsonemus latus</i>	生長点の黒変、果実の黒褐色の傷
コスモス	ヒラズハナアザミウマ	<i>Frankliniella intosa</i>	花弁の脱色した吸汁痕と萎縮
コスモス	ワタアブラムシ	<i>Aphis gossypii</i>	花弁の全体的脱色と退化

表2 平成6年にやや多～多発した病害虫

作物	やや多～多発した病害虫
水稲	イネミズゾウムシ、アカヒゲホソミドリメクラガメ
小麦	うどんこ病
大豆	食葉性りん翅目害虫、ハダニ類
小豆	アズキノメイガ、ハダニ類、食葉性りん翅目害虫
菜豆	アズキノメイガ、ハダニ類
馬鈴しょ	夏疫病、黒あざ病、そうか病
てん菜	褐斑病、そう根病、ヨトウガ(第1回)
リンゴ	ハマキムシ類、ハダニ類、キンモンホソガ、モモシンクイガ
野菜類	タマネギの乾腐病、ネギアザミウマ、ネギの黒斑病、ネギアザミウマ、ニンジンの黒葉枯病、ダイコンの軟腐病、コナガ、キスジトビハムシ、ハクサイの黒斑病、コナガ、キャベツの軟腐病、コナガ、アブラムシ類、トマトのハダニ類、ナスのアブラムシ類、ハダニ類、キュウリのうどんこ病、ハダニ類